

1 単元 発音クリニック

2 指導観

高度情報化社会を迎えた現在、コンピュータは時代を生き抜くための大きな手段である。また、コンピュータで得られるネット上の情報は依然として英語での情報があらゆる言語の中で群を抜いて多い。そして、日本でのブロードバンド(通信速度が高速なインターネット)普及率は5割を超えた。ネット上でのコミュニケーションは数年前までは文字ベースでしかできなかったが、安価なカメラ等の普及により、インターネット電話による音声・動画コミュニケーションや、動画投稿サイト等が一般的なものとなりつつある。コンピュータ上のコミュニケーションの進化の早さを考えた場合、これから必要とされるのは、文字ベースから音声・動画ベースのコミュニケーション能力となっていくものと考えられる。その際、グローバル化は現在よりもさらに進み、必要となるのは日本人同士でならば通じる日本訛りの英語ではなく、国際的に理解される標準的な英語である。

本単元では教科書から少し離れ、日本人にとって発音し分けづらい音に注目して「英語らしい英語」、つまりネイティブスピーカーに近い発音を目指して練習を行う。「英語らしさ」にはアクセントやイントネーション、適切な表現の選択等様々あるが、それらの基礎とも言うべき一つ一つの単語を、なるべく正確に発音できるように、コンピュータと一連のソフトウェア群を使って生徒一人一人の発音を判定する。そして、全員が英語らしい発音をできるように、上手に発音することが恥ずかしいと思わない環境を作ること、これから先の音声指導のための土台を作りたい。

本学級の生徒は、35名(男子17名、女子18名)である。それを単純分割し、少人数方式でTTを行っている。全体としてはおとなしいクラスだが、英語の授業では積極的に発表する事が多く、英語を大きな声を出して読むこともできる。

しかし、事前に行ったアンケートによれば、英語を正しく発音することやリスニングに自信がある、と答える生徒はきわめて少なく、英語らしい英語を話したり聞いたりすることに対する不安が読み取れる。その一方で、授業中にLとRの発音を積極的に練習しようとするなど英語を正しく発音する事への向上心が見て取れる。このような生徒達には適切な発音指導を行うことで英語を話したり聞いたりすることに自信を持たせ、英語に対する不安を取り除くことができると考えられる。

指導にあたっては、英語で会話をする際に、相手の言っていることが分かる、自分の言っていることが伝わるという喜びを味わわせたい。そのためにまず、各々の授業の最初に通常の発音確認・発音練習を行い、その時点での自分の発音をコンピュータに録音させる。次に、その日のポイントとなる音とその発音記号を生徒達に紹介し、特にその音にだけ注意をして練習をさせる。その際、音の特性を画像化するソフトを使い、自分の出す音と、標準的なアメリカ発音との差を見つけさせる。その後、その差を埋めるためには自分の調音器官をどのように動かせばよいのかを考えさせ、正しい音の出し方を覚えさせる。さらに、練習後の発音を録音させ、それを使った生徒同士の相互評価をコンピュータ上で行うことで、ネットワークを介したコミュニケーションの練習の場としても活用したい。最後に課題スピーチ活動を行うことで、達成感を味わわせ、英語らしい英語を話せることで喜びを感じさせたい。

なお、単元を通して、発音クリニック前・後の音声データを保存し、各人の上達の経過を記録していく。

3 目標

コミュニケーションへの関心・意欲・態度	・英語らしく発音するために意欲的に練習に取り組もうとしている。
表現の能力	・英語の音を適切に発音し分けができる。
理解の能力	・紛らわしい英語の音を聞き分けることができる。
言語や文化についての知識・理解	・日本人が聞き分けづらい英語の音(とㇿのミニマルペア等)の違いを理解する。 ・英語らしいアクセントやイントネーションの特色を理解する。

4 指導・評価計画 (4時間)

配時	学習活動・内容	指導上の留意点	評価規準 (評価の方法)	評価基準(関心・意欲,表現,理解,言語・文化)		Cと判断される 生徒への手だて	
				A	B		
	英語らしい英語を話せるようになろう。						
本時 1	発音の練習をする。 ・æと を発音し分けるための練習をする。 ・録音した例文を使い,相互評価を行う。	・まず run と ran の母音が違うと言うことに気づかせる。	関:正しい発音の練習に意欲的に取り組んでいる。<様相チェック> 表:相手に伝わるよう正しい発音をしている。<録音チェック> 理:友人の録音した文を聞き,発音から意味することができる。(書き込みチェック)	・画面表示を頼りに,自分の口内と音の関係を探ろうとしている。 ・他の音も積極的に発音している。	・語の強弱も正しくつけられている。 ・相手に対してのアドバイスの書き込みもできている。	・æと の音の区別をはっきりつけられている。 ・æと の音を正しく聞き分け,相手の意味することを聞き取れている。	・カタカナで音をイメージさせ,正しい発音をさせる。
1	発音の練習をする。 ・英語の l と r をはっきりと違う音として言えるように練習をする。 ・早口言葉を通して l,r を正しく使い分けさせる。	・どちらも日本語にない音で,日本人にとって難しいことを説明し,上手にできる生徒には自信をつけさせ,できない生徒のモチベーションも下げさせない。	関:正しい発音の練習に意欲的に取り組んでいる。<様相チェック> 表:相手に伝わるよう正しい発音をしている。<録音チェック> 理:友人の録音した文を聞き,発音から意味することができる。(書き込みチェック)	・画面表示を頼りに,自分の口内と音の関係を探ろうとしている。	・早口言葉をスムーズに,発音も正確に言うことができる。 ・相手に対してのアドバイスの書き込みもできている。	・LとRの音をしっかりと発音し分けることができる。 ・LとRの音を正しく聞き分け,相手の意味することを聞き取れている。	・カタカナで早口言葉を言えるようにさせ,LとRを付け加えさせる。
2	英語らしい発音でスピーチをしよう。	・既習の表現を用いながら課題スピーチを,母音,L・Rの発音に注意して練習させる。	関:友人とお互いに発音のチェックをしている。<様相チェック> 表:課題スピーチを英語らしい発音で行うことができる。<発言・録音チェック>	・課題スピーチの内容について,紛らわしい音を英語らしく発音し分け,英語らしいイントネーションをつけられている。	・課題スピーチの内容について,はっきりと紛らわしい音の区別をつけられている。	・音を口移しで教え,また,Aと判断される生徒達にも指導をさせ,英語らしい音の達成を目指す。	

本単元は各学習活動を他単元の間等に行い,英語の発音に関して生徒達の能力を向上させるためのものである。よって上記計画において次時になっている学習活動は実際には時間割における次時には行われぬ。

5 本時 平成20年10月1日(水) 第5校時 場所 パソコン教室

(1) 本時の主眼

- ・英語らしい発音・発話ができる。(表現の能力)
- ・正しい発音で相手に伝えようとしている。(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)
- ・友人の英語を聞き,発音の違いから意味を聞き取ることができる。(理解の能力)

(2) 本時の指導観

本時は,コンピュータを通して正しい英語の発音ができるようになることをねらいとする。まず,「ア」と聞こえる2つの母音(とæ)を挙げ,英語には日本語にない音があることに気づかせる。その際,生徒達自身から例に挙げていない母音や子音でも似た音があるという事に気づかせる。

次に,コンピュータを使い,発音の確認・練習を行う。ここでは相互評価の観点を設定し,表現について評価させる。また,練習前の発音を録音しておくことで,自他の発音の改善を実感させ,英語を自信を持って話すことにつなげていく。

(3) 準備

プリント パソコン 発音視覚化ソフト

6 過程

学習活動・内容	資料用具	指導上の留意点	形態	配時	評価規準 (評価の方法)	評価基準		Cと判断される 生徒への手だて
						A	B	
<p>めあて: 英語らしい発音で伝えよう。</p> <p>1 あいさつ 2 本時のめあての確認 3 基本文の確認 ・発音練習をする。</p> <p>4 基本文の録音 ・基本文“We run/ran after the rat.”を録音する。</p> <p>5 発音クリニック ・ソフトの使い方を学ぶ。 ・発音の矯正を行う。</p> <p>6 相互評価 ・基本文“We run/ran after the rat.”を録音する。</p> <p>・級友の音声を聞き,run なのか ran なのかを判定する。</p> <p>7 本時のまとめ 8 次時の予告とあいさつ</p>		<p>・パソコンの準備をしておく。</p> <p>・板書しておく。</p> <p>・単語を読めない生徒のために音の確認をする。</p> <p>・パソコンにそれぞれ録音させる。</p> <p>・口を大きく動かすことを意識させる。</p> <p>・runなのか,ranなのかをはっきりと分かるように発音させる。</p> <p>・聞いた文のあとに“every day”か,“yesterday”をつけて文を書き込ませる。</p>	<p>一斉 一斉 一斉</p> <p>個人</p>	<p>1 2 5</p> <p>2</p> <p>22</p> <p>15</p> <p>2 1</p>	<p>関:英語らしい発音の練習に意欲的に取り組んでいる。 <様相チェック></p> <p>表:相手に伝わるよう英語らしい発音ができる。 <録音チェック></p> <p>理:聞いた文が現在形か過去形かがわかる。 <書き込みチェック></p>	<p>・画面表示を頼りに自分の口内と音の関係を探ろうとしている。 ・他の音も積極的に発音している。</p> <p>・語の強弱も正しくつけられている。</p> <p>・うまく発音できていない相手にはアドバイスも書き込んでいる。</p>	<p>・run,ranの音の区別をはっきりつけられている。 ・run,ranの音を正しく聞き分け,相手の意味する聞き取れている。</p>	<p>・発音の位置と画面表示の関係を教え,口内と音の関係に気づかせる。</p> <p>・カタカナで音をイメージさせ,正しい発音をさせる。</p>

